

# 環境・安全シンポジウム 2008

## —環境安全に配慮した大学の実験室インフラのあり方—

主催 日本化学会 環境・安全推進委員会

日 時 平成 20 年 3 月 29 日 (土) 13 時 30 分～17 時  
会 場 日本化学会第 88 春季年会 (2008) 立教大学池袋キャンパス  
SA 会場 (5 号館 5321 号室)  
<http://www.chemistry.or.jp/nenkai/88haru/1-1.html>

**趣 旨** 実験研究現場における環境安全を考えるにあたって、実験を行う施設が環境と安全に十分配慮されたインフラとして整備されているかどうかは前提条件となる。ところが実際の大学実験設備を見ると、安全かつ快適に実験を行える作業環境が十分に整備されているとは言えない。このような理想と現実の乖離を解消し、大学の研究者が安心して研究や教育に専念できる実験室インフラを整備するためには、頻繁な人の入れ替わりや研究テーマの変更といった大学研究における特殊性を考慮し、限られた予算やスペースを制約条件とした現実的な実験室計画指針の確立が急務である。このシンポジウムでは、環境安全に配慮した大学の実験室計画のあり方について、実験室のユーザー・設計者・管理者の各立場からご講演いただく。

### 内 容

- 13:30-13:45 開会挨拶 (環境・安全推進委員会 委員長) 山辺 正顕
- 13:45-14:15 大学の法人化と実験室インフラ整備の現状—東北大学の事例—  
(東北大学大学院環境科学研究科) 吉岡 敏明
- 14:15-14:45 大学実験室における空気環境の考え方  
(株)山武ビルシステムカンパニー) 斎藤 英弥
- 14:45-15:15 大学研究の特殊性を考慮した実験室計画  
(株)竹中工務店技術研究所) 川尻 聡
- 15:15-15:45 大学の環境安全確保に向けた運営の工夫  
(千葉大学施設環境部) 加納 博義
- 15:55-16:55 パネルディスカッション (総合司会：東工大院理工) 市村禎二郎

**参加費** 無料。講演資料代：1,000 円 (当日徴収)。

**定 員** 100 名 (満員の場合はご入場をお断りすることもあります)

**参加申込方法** 「3/29 環境・安全シンポジウム出席」と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX 番号・e-mail を明記のうえ、e-mail ( [matsubara@chemistry.or.jp](mailto:matsubara@chemistry.or.jp) ) にてお申込みください。なお、当日は 13 時から受付を行います。

**問合先** 企画部 保倉 電話 03-3292-6163